

東海道・藤沢宿

藤沢宿の名物は

「大山詣で、

江ノ島弁財天詣で」

——「東海道宿村大概帳」より

藤沢の周りには道が多くあり、人や物の流れの中心となりました。

他の宿と同じように神社や寺などの参詣場所が集まり、それらに付随するように店が並んでいました。

江ノ島は海メインの観光地ではなく、江ノ島弁財天が祀られている土地として有名でした。

平塚宿

四谷立場

大山

藤沢宿

江ノ島

白旗神社

戸塚宿

大山阿夫利神社

源頼朝にまつわる文化
H28年4月に日本遺産
に認定された「大山詣り」

白旗神社

源義経が祀られている

江ノ島神社

蒙古軍を撃ち退けたという伝承
「芸事」「福德」「財宝」の神様とされる

遊行寺

「小栗判官伝説」という説教節の舞台になったとされる

大鋸橋

現在は「遊行寺橋」と改名されています。この橋と江ノ島一ノ鳥居のセットが描かれた浮世絵が多く残っています。



江戸時代

江戸から京に向かうために通る橋だったため、多くの人が行き交い店も多く並んでいました



人通り 多
店 多

江ノ島一ノ鳥居：
江ノ島道の入り口目印として建っていた江ノ島神社の鳥居です



現在

橋の向こうの旧東海道は住宅街となり、写真手前の江ノ島道（国道467号線）が主要な道となりました

人通り 少
店 少（国道側のみ）



50mほど下流に規模の大きな交差点になっている「藤沢橋」があり、現在はそちらが交通の中心となっています

四谷立場

現在は国道1号線と県道44号線の合流点、四谷交差点となっています。
宿間の休憩所であった立場には多くの人が集まり、店も多く立ち並んでいました。

※左下部分拡大



道標の上には不動明王像が乗っています

「追分（分岐点）」
「大山みち」といった文字が見えます

人通り 多
店 多



浮世絵左下に描かれている道標は現存しています

同じ構図で道路を見ても人が歩いている姿はなく、車が絶えず走っていました

人通り 少
店 多

江ノ島

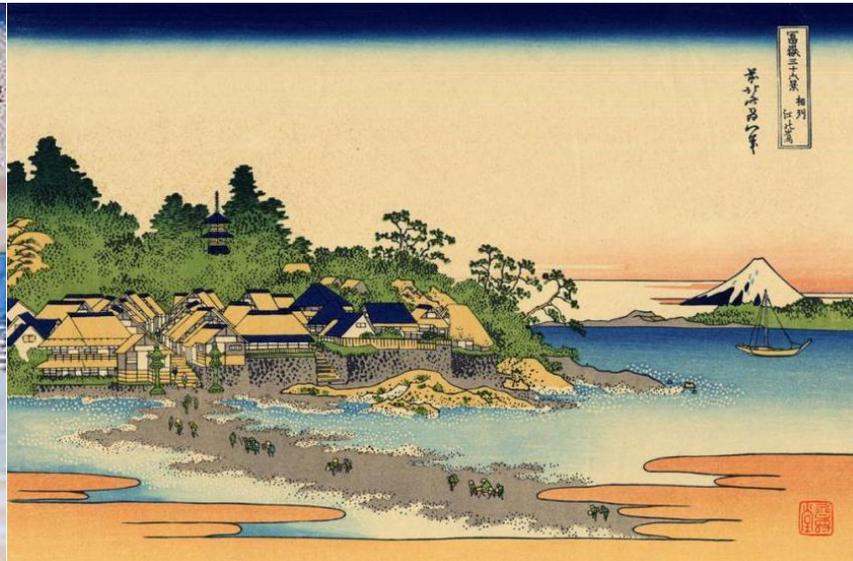
江ノ島は陸繋島なため、人が歩いて渡れます。
波が侵食して出来た洞窟「岩屋」は修行の場としても有名だったといわれています。



江戸時代

江ノ島神社への参詣、岩屋での修行が主な目的でした
干潮時にあらわれる砂洲を歩いて渡ることが出来ます
江戸からの小さな旅先として人気だったようです

人通り 多
店 多
旅館 多



現在

江ノ島そのものとともに、手前の片瀬海岸への観光や
海水浴、水族館を目当てに人が集まります
道路として整備された江ノ島大橋がかかっています
江ノ島神社は現存していますが、あまり主要な目的と
はならないようです

人通り 激多
店 多



「藤沢宿」の名残り

調査していて見つけた、「藤沢宿」が残っているもの



県道沿いの歩道に設置されているトランスボックス（電柱の地下化に伴う設備）に藤沢宿に関する浮世絵や写真が描かれています

だいたい40m間隔で設置されていて、どのボックスもそれぞれ違う浮世絵や写真になっています

このトランスボックスを追うように歩くだけで東海道をなぞれるように考えられているおかげで、藤沢市民には藤沢宿だったころの記録が身近なものになっていると感じました



辻堂にある浮世絵資料館です
東海道の歴史を主に、藤沢に焦点を当てた展示が多く、実際検索では出てこない作品から藤沢宿のより深い知識が得られました（人物画から知ることのできる風俗文化など）



「東海道七 五十三次 藤沢
(隸書東海道)」
歌川広重



「東海道五十三次之内藤沢
(保永堂版)」
歌川広重



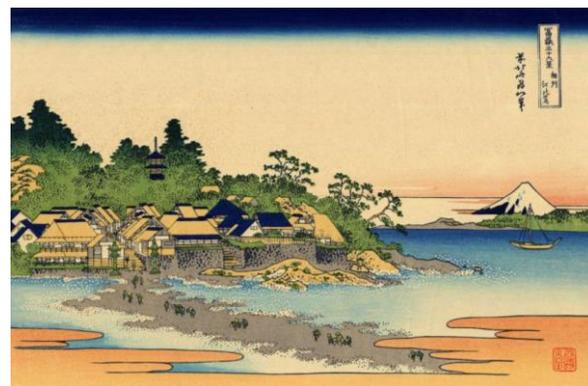
「東海道五十三次 藤沢
(狂歌入東海道)」
歌川広重



「東海道七 五十三次之内
藤沢 四ツ谷の立場
(蔦屋版)」
歌川広重



「相州江ノ島の図」
歌川広重



「相州江ノ島」
葛飾北斎

参考

藤沢市HP

藤沢市藤澤浮世絵資料館HP

電子博物館みゆネットふじさわ